武蔵名所考

冬

内閣文庫
和
二三七七二號
四冊
三架
七四函

和書門
類
二三七七二號
一函
一架
四冊

内閣文庫
番號 和 23772
冊數 4 (4)
函號 174 3

綴じ部（喉部分）の文字など開きが不鮮明な箇所あり

国立公文書館
National Archives of Japan

武蔵名所考巻四

晃嶋陳人編

堀兼井

名所抄に武蔵注に入間郡類字名寄松葉並に載せ名寄に堀難井と作る歌林載せず

枕草紙に云井もおりこのもの井

八雲御抄に云おりかねの井武蔵

夫木集に云おりこのもの井武蔵

藻塩草に云堀難井武蔵入間郡

義経記に云あしたの宿をうちたてむさし堀かねの井をよそ

堀氏文庫

みつゝて左の中将のなりめりとみてひて其
の國さやうのものやうにもあらぬよしのみ
太平記に云源氏を絶に付きて平家八多く亡れバ落武
二度の合戦ふ打負ふる心地して分陪と云く引退く源氏牧
繩ゝく寄んとしけるを連日数度の戦よ馬あまた疲ぬ
一夜の馬の足を休めゝく久米河に陣を取ゝく明日をこそ待
ゝれハ云云十四日辻数未明ふ分陪へ押ゝく時を作る云云
義貞遂よ打負て堀金城指ゝく引退く
又云西陣を出て北を願れハ東野血よ
湧て巽さゝ縦横の人馬河を流て堀の水も血となる
宗久旅日記ふ云今ハそのとゝ
なりぬゝゝまて思ひの外に於ける人乃数多由の道ゝと弥々ゝ
ゝ人よ行ゑぬそのか昔ふ
ゝまゝゝく歩ゝゝく住ひゝゝく堀
この辺ふそひの思ひ出なふ
圓國雑記よ云堀この井
戸とゝやその里をやのゝく
名所方角抄よ云堀集井入間の辺所
日光紀行よ云山の端ふぬもさ
績無名抄よ云武蔵國
江府よりゝくりの
よ随ひて安産府のゝ

なりぬゝゝまて思ひの外に於ける人乃数多由の道ゝと弥々ゝ
ゝ人よ行ゑぬそのか昔ふ
ゝまゝゝく歩ゝゝく住ひゝゝく堀
この辺ふそひの思ひ出なふ
圓國雑記よ云堀この井
戸とゝやその里をやのゝく
名所方角抄よ云堀集井入間の辺所
日光紀行よ云山の端ふぬもさ
績無名抄よ云武蔵國
江府よりゝくりの
よ随ひて安産府のゝ

国立公文書館
National Archives of Japan

着て切まで六安産寺天徳寺と号し未申の方何の頃後
国より在て此あめくぬ
志料に云坂この井八入間郡川越より在る時此令俗
説江戸砂ともに牛込産坂の名より在といひぬそれ
より先此書八かくのめくきる故に麻布天徳寺の名より
ゆゑきぬもあとそうるなるに麻布天徳寺の名より
在りし故へ名むくそいつるる人そや云天徳寺
おとて麻布よあり
江戸砂ともに云堀兼井牛込逢坂の姫のと里諺に曰往
母の墓よりくその父ともに井戸ありとほりそそ
て死よりと名と改と也又多摩郡中野の先まもりり

かゝの井といふあり
桜ともるに今牛込と堀兼井と云井二所ありひとろ八
逢坂の下統紫氏乃屋敷の脇に在ひと八富士見
馬場久保氏の屋敷乃うちに在
諸國里人談に云武蔵國入間郡堀金村に小高き山よ
浅間宮の禁よとそ〳〵窪めるふ有よ場金井の名あり方
六尺ばかり石にて築〳〵て井形とそ〳〵末八埋て苔むし〳〵
傍に碑有近き頃川越侯武士乃これを建〳〵也川
越より二里未申の方に堀兼井と称する有(此)
此所に浅間宮ありと云也此よりまた六町南よ方二十間
ばかりから場のめく窪めるふ不これもその井乃名也と云

又乙女新田或ハ入間の里ニて此所を地名
そこく水を汲かこ〳〵依て堀ノ内ニ里俗ニ生馬
を迷ひ〳〵たる之堀金の名なきまこは堀金井ニ
字を書よりまこの所ニ〳〵なんどゝ
按ニ是ニ近江比逢〳〵ニ
なり其文ニ此凹形之地所謂堀殺井之蹟也恐久而
遂失其處因以石井欄置坳中削碑而建其傍併以
備後監里俗堀而難得水故云爾以兼通難未知只
從俗耳寶永戊子年三月朔ニ有秋元但馬守の逢
〳〵云〳〵
武蔵野地名考ニ云堀兼井入間郡の内ニありし河越

堀より二里ニありし府中ニ又里ニ堀兼ニ云事此所土地高
一級を下りて井の深さ廿尋ニ二級ニありし下ニ
のうちニ〳〵井ニ〳〵ありニ尋ニ十尋ニ
畢ニ〳〵水必ニ〳〵なり堀ノ内ニ
して水なきこと
再按江戸砂子ニ云堀ノ内ニ
うち岡部家やしきの内西谷ニあり赤坂清門の
の井ニ云ニ〳〵なり又近年怪しき一書ありニ〳〵何
うニ〳〵の落ノ時此井を尋ぬ美人出来て〳〵
をいふ〳〵を語る旨ニ〳〵たるおりむたをのすこま

また信濃一ノ宮紀ことあり
江戸志ニ云堀兼井の説諸書よいろ〳〵あり武紀ニ
いへ河越のうち堀兼井の名と云不二所なりまた淺
間宮の下にある銭井と云ことまさの俗よをんけん堀兼
と云その外二所をとけ下堀兼ありかまそて
なるを
按るに河越のうちといへハ誤なり河越郡のうち
いり戸ハ入谷の誤あるへし
武蔵志料ニ云堀兼の井を河越の南まて即入間郡ニ
ある井戸ハなるかよ満つとく多摩郡までこの事紀し
なそらくハ今言井土をいふといふるハ後人の書入ある
ヘし

又高井土乃ほとりよ入間村有れハなるへし
武蔵堀兼井事實ニ云土人の口碑よ日本武尊東夷
征伐乃御時武野の水乏とく諸軍渇よ及ひ給ふ尊
民をしてとく為よ井戸を堀しむるに数箇不堪く水を得
されハ龍神に祈ましめて流をひきもる今亮を不越(トラス)川
と云或ハ入間川のるともいふ定(亮盛)
碑を建たる事ありと載せ
按るに今土人半ともに川と称するは源を宮寺と云
ふより発し南入谷村ホリカ子ノ井
ところある小流あり
武蔵志稿ニ云入間郡南入谷村ホリカ子ノ井
按るに谷の字ハ谷の誤なるへし南入曽村よ七曲り

井と云あり是をも堀の井と今もいひ傳ふ
後よみあらんを
三芳野名所圖跡記に云淺間社入間郡之内堀兼村よ
在此社を慶安三年よ松平伊豆守内遠江なり川越の
南二里余あり堀兼を堀金と書も非なり
又云堀兼井武蔵野古跡よも名るき而已此井淺間
の社山の裾よ方貳間そりの四の地其内よ方を間そ
りの石の井枠あり半ハ土にて埋ミ則堀兼の井共古
跡之又此をよ堀兼の井と称する処多し此南六七丁
程すゝて井跡あり又入名村そ云而も七曲りの井と云
なり江戸四谷をもりをも言井古跡と云なりさもそれも皆ハ

武蔵野方数百里の廣野なるに人家多し此淺間堀兼乃
井こそ実の古跡なるべし
武蔵演路よ云堀兼井堀兼村小名よ淺間大権現
宮禁よおゝ窪なる而堀兼井の蹟あり方六尺ばかりの
石枠窪して井枠ハ埋て苔むしさり傍よ一
基の碑あり云俗云松平伊豆廣川越城主の頃遠ら
きゝとして（付碑実永戊子建る而これを享和の頃移封の後あり秋元但馬建しと云説誤也）
も今此淺間宮の下よ堀兼井ありと上よ堀兼井ありと
と又云ここの変ハ皆より一二町脇小名よありしと
今殿茅のこ義り埋ここより其旨石に七曲りと小名をよ
まことにその古跡を後代よ知さんうるよ此事よ後年

こゝらくさるところ又浅間の宮あり井有辻和歌
涼く水上よりハヲゝこのぬる程九廿尋ゝろ之丸を以て組
よさり此外村ゟろ二三箇石井有ゝて熱して此辺土
地ゟくゝて多を汲かゝ〳〵よろて堀の〇ゝるところハ里俗よ
りく共往来〳〵たる之堀ゟ〇の名水ゟれハ堀金井と
いつを兼の字或書たりやゝこれ亦誤ゟ〳〵ゟ之或云堀
金ハ北野といふ地ゟり北二里其二三町脇よ七曲りゝろ
塙井有り水涸土人の説よ古いつまの跡野中ゟ長し
ゟを穿よ涼くゟゝよゟる之七曲ゟるとてゟるゟく水ゟ
没ゟるゟと中傳ふ北堆とゝふ地ハ川越城下へ四里ゟ南の
方ゝとそ

按ゟるに堀ゟの井ゟ入間郡の名ゟゝる事ハ藤陰ゟよりも
ゟゝとれゝ其説たゝこのゟれとてゝゝそ其四方ゝ定ゟるやひの
ゝゝゟゟゟゝ名ハ其地ゝ住ゟゝゝゝれを採りゝて入間郡堀金
村北入ゟ村北入ゟ小新田南入ゟ村等ゝある土人七曲
の井戸と称ゟる古井ゟ跡とおりゝき窪りゟる所十四
箇所ありゝゟ堀兼の回踊ゟるりゝとゝ仏ゝゝゝあゝり
ゟ昔時武蔵野の中央ゟゝゝゝの〇ゝゝ言年の廻な
ゝ井を堀ゟるゟ涼のゝゝゝゝれを水飢渇のゝゝ今も
ゝゝゟりゟの一人のゝゝあゝ一かゝぬ心ゟり廣くほり
ゝゝりく深ゝゝゝゝ底のかゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
めゝりく底ゝいゝれを七曲の井戸ゝハ称せゝゝゝゝ今ゟ

その形ち三ツせく有て窪ミ
有ゟ堺金村ゟ七丁余北へ入
二丁余南へ入
の社の傍ゟ一丁余二丁ハ小名
の裏ゟ二丁余與八ゟ
いつゝのゝて原畑の中に
へ
しるし
これより二丁は小名おの
とのつゝ家の前ゟ一丁余

[illegible]

一丁ゟ表ゟ
の畑中にあり
村の三丁所
丁余二丁ゟ市ゟ
土人ゟ堰兼村の
其外ゟ又堺兼村の
家の前ゟある
水もあり
又兼舎村下奥富村
らゟ水なし

傍ゟ

新田地ところく村を場合と名付けし八遠ところぬ世乃
事之と土人をいふ村名ところく実海と定むるも
学乗なところや土人のかろ紙等ところむう八今の
洋間の社の西之海き古井の跡ありし人のおら入ん
るをおそまつくいつの頃ところれを埋め土砂ところり
あけそのよと洋間の神をまつり今石の井けをを
ほくりしところその古跡紙うしありところ新ふ
ありしとそまき諸国里人候三芳野旧跡紀と浅
間より五六七町南と井の跡ありし載ところは
いる小名書といふ不のるもの之江戸志ところ
このといふる無すれら孫吉乗門與八仁吉乗門等う

井のるもの之のありこのをと
堂のうしほくと在る井のるもの
して水をねかところれそいふ
家久旅日記と場のの井
いふところく新ところ今そのと
ところそまことよいまといふ
へけきむくの井処堰ところしほ此
逸の井をむのしれほりかをと
なと事とすところを放その桟もむう少之の絶
ところ不要と埼桟をところ越ところ事のなとひあり
した井の川のうら山通を便紙ほくほろくかよ

へきこゝろなく今たゝ
績と侍るなり又古今
この一首地よりこゝ
いく人あり金鉄ほりこ
堀こやいつ垂乳根
たゝこかくこのめ〳〵用
唐語と混るなりこの
心よりめふりてもこ
むさゝなるほりかねの井
大伴家持卿 家集
伊勢 家集

いのそゝく男こゝろほりこの
武蔵野の堀兼の井の底を浅
同 歌枕名寄
こゝろとわりのひこゝやれ武
源俊頼朝臣 家集
ひのさかこゝをゆく人はこゝ
西行法師 家集
汲くこゝろ人もあるらん
藤原俊成卿 千載集
武蔵野のなりこのねの井も有

今ハわき清きこころを志れ水いけりともの井ぞくみこん

慈鎮和尚　拾玉集

ほりこのあるじのいときくむさし野ハ井の清くのこる名ぞ

後久我太政大臣源通光公　続拾名寄

むさし野ハ塩竈乃井の清くのこる名ぞ

冷泉太政大臣藤原公相公　夫木集

村ことに那く野ハあれども井の清くねと

堯恵法師　北国紀行

伊そかくるよ都ふむさし野ハやりの井に水をなくれや

道興准后　田舎雑記

同

昔たれ名ぞくしの名残とめく水をほりかくのこる

迸水

松葉に載せ名寄に来勘の部に載せ名取抄類字歌林載せ

夫木集に云ふけ乃武蔵

諸国里人談に云迸乃武蔵

義経の湧置の筆もとろくしきかるる墨のそこ

地宝志てこゝさとりぬれたる筆毛紙をるく水乃流

るくめくるぬるとその不よりこれハ生のけふて又向ふ

ふ流るくめくれ新あり川まこそそもその不定をもり

ふと生ハ行くく迸ゆくやうにかる名付さら墨より

笈このけしくなり秋ふるをなげよ逃ありと云地名あり
武蔵野地名考に云按るに云々せよ逃ありと云細き流ありそれ分れ
堀兼村のあたりより奥にて久川と云る川也寺奥のみ之称ともいふ
萩をきりあくあのなるまきさる水ありて水湧くれ水根これ
を逃水とこそもも便なりもあり人
をゆくに野原のほうみる所をもるく水湧くれ水根これ
よけく野中をもけをいけこそもるく水湧くれ水根これ
沿のこそ〳〵此時往反の人定るめ道筋そうまもせ
さ海よひあるかこと吟ひわるむさ〳〵の人これ
ることて年の八九月霧よまくハ必あるまり人、
の曰これん逃ありと云へきれ古今ともむさ〳〵此の事

このれよゆくあれ逃かまてもとあれそその名と事と相
符をるまや
武蔵遊草に云逃ありのるハ古老伝へいひ〳〵ふの頃小
川新田といふ所の一本榎といひるなりより野口天王杜の
邊ある八武蔵地蔵といふありしよ〳〵あれこそも
今も民家こもくそ住きさりく武蔵此の伝へあるれ
逃あり絶さり
萩をるに旧説或ふ陽炎と行潦と云ふ
とも源俊頼朝臣の逃かこそれてる世説こそ
いる哥こ於く切なるさるらめ〳〵初多
摩川のより土地墳起せる不こそ水地中こ依〳〵

数里うるく流出るもの有豊島郡石神井村三宝寺
池多摩郡井草村善福寺池等孔村井頭池みとゝもに
多摩川の伏流なるべしと云説あり義濃國醒井のみ
も皆是の湧出伏流之ところ西土齊州趵突泉をも
加ふるやうやうに多くの伏流となりて流れ
いく歟と於て八伏流とするてゝ穏当の名余此流を
指す後三芳野名所舊跡記をよみしに二流とも
より下八武蔵野の逆み水と雖も眺むるに東北に
おもむきよりするれハ是れ未の水の流るゝ
をもてよりするれハ水の一又を向の左のめぐるれハ
り程なく逆りやうあるなるべし逆水也

二つには水野村と云所ケ郷深水野忠助と云もの屋敷
数十歩小川有数の中に流れ入り地中ゝ走り逆流
の末ゝ一丈程逆水となり三つには宮寺郷と云所と
年ゝ洪川と云有畑の方より湧出ゝ川と成ゝ夏
の大雨ゝ出水の節八悪我人稀あり毎年大略員
数ゝ水流ゝ事なゝと第二説ゝいふ所村八入
間郡山田庄川越領ゝて堺金村と隣る余なゝく
忠助ゝ家ゝいゝり又ゝ加の説のごとき小川あり源を
これも宮寺郷のかゝりよりおこりなゝのゝ事二里
許之今ゝ数八なゝく川のゝ末堀切ゝ如くなりその
及ゝ間ゝゝゝり上鍵のごとく打ゝて八濁渡ゝる

流るまて堀切の水こゝにわりくゝ引入
もゝそその源紙包をも僅ゝ二尺餘そゝりこと
なるそゝ今の説ゝ類せりまゝゝ今の説ハ推量
みゝく此ゝ村ゝ古村ゝその地理こゝろなれと遊歩ハてゝん
てゝ定むへきことゝ思ゝ此村ハゝと新田地ゝて人
家もゝそのうゝ紙窓助のゝ先祖ゝるゝのはゝめく岡
きゝゝとゝん

入間里

東鑑ふありとゝ引ゝるゝけゝ源後頼朝臣家集
ゝ名寄松葉ゝ載ゝ名寄ゝ入間郡哥里也有二郡哥一欤可尋之
ゝと云名ゝ抄類字歌林載せゝ
續日本紀ゝ云稱徳天皇神護景雲二年秋七月壬午武蔵
國入間郡人正六位上勲五等物部直廣成等六人賜姓入
間宿禰

拾芥抄姓尸錄部宿禰
延喜式ゝ云武蔵國入間
和名抄ゝ云武蔵國入間伊留末
吾妻鏡ゝ云建久四年三月於武蔵國入間野有追鳥狩
名ゝ方角抄ゝ云入間里小川有世俗ゝ入間の宿ゝいゝ郡
の名ゝり方角抄この下ゝみゝゝ里ゝ同の里ゝ脱せり

南向茶話ニ云川越の城内ニも業平の祠を祭れりとかや
云も入間の里ニ居住の故ありてニや
武野志料ニ云入間里すなわち入間郡を云ふ
入間の郷ハ和哥ニもよみこまれたる名にて多し
桜ニ名ある今入間郡ニ入間川村あり河越の西南二里
餘ニ在土人の説ニも中頃ハ入間里ニ在しとかや村中に天祖社祠りあり
社の下ニ古哥をよみ彫たる石碑ニ業平と称ふ
ものニて業平ニ縁ある社ニハ管弦ニ縁ある
をいふことまゝあるものニて
又齋藤敬天いふ入間川を近世ニ川ごより名を

得る地名いかゞ入間里ニハ別ニ河越より
南ニあたり入曽村ごく南北二村ニわたれる大村あり
曽と曽と筆勢相似ごく傳書ニ来れるやこれそ
まごごく古の入曽里なるべん
ニ仍假名ごく送り仮施行事多ニハ字の下ニり放
ル事を添書せり後ニ入るニハありけんと
おもふる又射鹿ニとも書ふるニハ射ニ好ごくごく
字を誤せりニまてニ是も来ふニ況哉の垣令の
類ごくこれも唐俗ニて古記邦語ニ非ず

藤原俊成卿藻塩草

さりごもなべたの雪は厚けれど松ごまでいる岡乃里にきつゝ入める

雲わくるそのけの末を夜半にいるまの里やゆふ立のそら

附入間河

北條九代記ニ云延慶次頼家ノ郎従藤田光澄武蔵國入間河ニ住ケルヲ聞テモ清水冠者義高討又云相模入道櫻田治部ヲ捕ヒ武蔵國ニ六方餘騎ヲ遣テ入間河ヘ向ラル

太平記ニ云武蔵國小手指原給ヘニ云軍八日ト約諦シテ入間河ニ陣ヲ取ル鎌倉勢モ三里引退ク久米河ニ陣ヲ取リ各両陣相ヲル其間ト乃渡セハ三十餘町ヲヘタヽリケリ

神明鏡ニ云文和三年七月廿八日基氏畠山國清武州入間川ヘ發向

北國紀行ニ云入間乃無渡リ云云此河ハヒキテ田園雜記ニ云これより入間川ありと云云此河ハヒキテさふくの説あり水逆ニ流るゝの名ありと一義も侍りまさ里人の家乃門ニ立ならべる方角安閑ニ見ゆれハ何方ニかと下ニ侍るもなんそこそこ水のあるへき家ニ井ゐて誠ニ物ゆゑ侍ニ中ゝ人ニ云ニ云ニ云

小き流にて幸手にて利根川と云ふ有十余町にて
麻縄と入間郡との界川のみ
芒まさそのうへよく合り村有
武蔵野地名考に云入間川これも又野中にあり西北
根よりみのれ出く荒川と落るとこゝ又とゝゝ川とみな
周流ることゝ武拾四五里みり合
里あまり江戸より到古跡なり義貞奥胡臣この河岸に陣し
みなとて旧跡あり足利基氏旗屋も此所に住〳〵東國武
落〳〵のよみと云伝へさりてさ〳〵も此ゝりこゝろみる
桜そるよ入間川を秩父より出る葉
郡落合村にて多摩郡北小
る村より多る畑川とい

一流と會〳〵言葉入間の間をみれ入間郡と入り押
川と合〳〵比企入間二郡の間武蔵なのれ荒川と入る武
いふより北園紀行角田川を去る
ものうちのつるとあるは荒川をの岡
まりたるそるあるへ〳〵

田舩武澤

松葉小載と名所抄類字名寄歌林載せず
八雲御抄云多のむの沢強何
語よ武蔵なり
桜そるに田舩武沢八よといる入間川村天神社のうへ

坳のかけ道に添ふる下露のおのれもものの次のまと
ありと今も古人のいひ傳ふ

攝政太政大臣　藤原良経公　新古今集

秋の原風よきよひく秋萩よ誰をたのむの雁なくらん

藤原有家卿　文本集

田舍武里

松葉ふ載と名所類字名寄歌林載せる

文本集云たの邑の里武義腰痛ふ

按ずるに田舍武里もよにある入間里ふ別称ありと

王人をいつりされと文本松葉ふ載とあひきくこれを
ふこの邑のこ

今ふんと秋をなの邑の里人まひかあれやそ門屋乃琴

源俊平納言　文本集

三芳野

名所類ふ大和武蔵二所と次又淨吉野里大和一説武蔵と
載せ類字名寄松葉ふ武ふ載せ歌林載せ次

八雲御抄云見吉野の里武蔵

文本集云ふよう〳〵く里大和又武蔵

伊勢物語云ふこの〳〵ふ田まてまとひおりき

ある云云住ところなんいるまの郡みゝ㆒けく里なりける
真名仔勢物語ㇾ云武蔵國入間郡三芳野郷有流
北條五代記ㇾ云扨のち河越の城と再興ㇾ氏綱在城ㇾ
ものぬ此城を頽定云先祖の家老太田道灌といつるその
初めて城と号を見そ聞く入間郡三吉野の里とやや在ゝ
中将のありわてひゝ三吉野の国面の方とよしも此そう〳〵
日光紀行ㇾ云河越城中も名ㇾ吉野のみゝ㆒けく里ありまり
紫一本ㇾ云三吉野ㇾ云郡の内上吉野中吉野下吉野とい
なり見を三吉野ㇾいゝ古哥みゝ㆒けく里ゝ野の国面の方もひさ
ふるゝ君このかゝてゝるゝとゝるゝ此哥伊勢物語の前書ホ
入間郡三吉野の里ㇾありり

武蔵志料ㇾ云今蒿に上中下有ㇾ三吉野といふ
ゝゝのゝゝたゝゝゝ八三越路といつゝき越前越中越後
の三越を合ゝくゝゝゝゝと見ゝ八僻事ゝ三八先
乃意ゝくゝ大和の吉野をゝゝ野ゝいひまゝ紛野ゝも
三紛野ゝのゝ見も三山ゝよめるゝ八ゝゝその外
三谷ゝ山のゝひゝゝ先ゝゝゝ同ゝく蒿の詞ゝ
されいゝ紛野まゝゝ野ゝゝゝゝ知ゝゝ
武蔵野地名考ㇾ云三吉野の里入間郡のうちなりいゝ八河
越ゝ總名ゝ古のむの沢ゝ此ホりうりまゝゝく土人ゝ同ゝ」
武蔵志料ㇾ云或人云三吉野の里今の河越城の西ゝ又八
今の㆒より八一里ゝゝ南るゝいり土民伝ゝ云毎年の八月

十六日より必ず左の歌を詠じて集とす
三芳野名所舊跡記云川越城入間郡山田庄三芳野乃
里に在
武蔵演路に云三吉野聖天神靈社川越城内落在三吉
野とも大きに江戸町の名所にて上中下有よし在原
業平の謫居の所といふハいつの事といふ事ハ今も三吉野郷と
称するハ武蔵國村名に三吉野郷二十村川越藩
河岸上下新河岸砂村南田島牛子弥林狭瀬苗間
福岡鶴馬寺尾苅倉宮岡針ヶ谷水子今福青柳北
入谷なり川越町を今も山田庄に属して郷名なり是

もむかし八三吉野郷にてありし故郷名をうしなふ
ゝや今考がたし

在原業平朝臣續後拾遺集

わの原こぎ出るとなく人にハ伊勢物語
みよし野ゝ山の白雪つもるらし古今集
ふる郷ハ吉野の山しちかければ後京極攝政藤原良経公
月清集
こゝろ〳〵野の里ハあれず秋の野になまじ人ハ
みよし野のなのみこそ聞えけれ藤原育家卿千五百番歌合
藤原雅経卿

みよし野やたの雪ふる原の寒さも曙
かすみきえいづくともなく里なまよ
り末はなのむら雲の原さえ残わたれるのこるまもなき
をりしもわれなのむれ原のわすれ
ふるさと花散こころ
ふるさと月をなのむれ原今や
わの方ふかきと思ひてこゝろ

定範法印 文木集

藤原知家卿 家集

藤原忠良卿 千五百番歌合

藤原為守卿 千首

源具親朝臣 新續古今集

なのめよりこゝもきえなんたのむの原乃雪
春を今こゝもきえなんたのむの雪乃
附河越

慶運法印 新續古今集

堯恵法師 北國紀行

かきりなれなをふかき武蔵野の
道興准后 回國雑記

浅葉野

名寄せ載せ又信濃とあり松葉歌林載せ千名所類字に浅
羽野信濃又名寄せ浅葉野東とあり義をといへども武蔵野

武蔵野原より例して別にこれをあらん
萬葉集に云浅葉野
　拾穂抄に浅葉野は信濃或は武蔵と代匠記に浅葉野
　もろもろのよあるよし一説十二さまなるよしなり
　葉と濃りといとり
和名抄に云入間郡麻羽安佐波
吏木集に云あさその武蔵
吾妻鏡に云浅羽庄司治承五年
又云浅羽五郎行長文治五年
又云浅羽小三郎浅羽三郎文治六年
又云浅羽庄司三郎建久六年
又云浅羽次郎兵衛尉建長二年
又云浅羽左衛門尉次郎建長三年
武蔵七党系図に云児玉黨浅羽小大夫行業
武蔵志料に云浅羽野或書に云信濃又は武蔵と有武蔵
よりの事未考
武蔵國村名に云入間郡浅羽庄川越領下浅羽村
又云入間郡浅間本郷上浅羽村
又云浅羽庄入西領北浅羽村
按るに浅葉麻羽浅羽文字異れども例の音転りて
信濃となるものと相混して兎しかく云れども今を
入間郡上浅羽村の田の中に何の丸城跡とて

稲荷の小社あり此辺浅間町といひ土人いひつたへ和
名抄信濃国郡名の下に浅羽あるくして本郡と浅羽と
載されハ等事にようもあるべきこの浅事歟なんと

柿本人麻呂卿　萬葉集

あさと野に立てあこそけぬかくれなまゆるようわのこひさらん
ようと人しらん

源俊頼朝臣　歌枕名寄

これをのの浅茅ふ野らにかる茅の浅くも人の思ふ
君故ここあさこそ庵に小萩つむ人のいくもこのく思へ

式子内親王　家集

わの神八のうらひやこれをのあさこそ野らよかく夕露

藤原家隆卿　續後撰集

これをのの浅茅ふ野らの露の玉ゆへ人に見えてそ

同　歌枕名寄

君のるく人の心をあさこそ野にこれをけやこれをのの
春八牡浅茅のくまいつのまふ重も濱やこ夜ひのるさわらひ

藤原範光卿　夫木集

源家長朝臣

紅乃浅茅のうら吹風ハ初　時雨この野
こまこそのれ茅ふ本をまさ深こそ初　時雨この野

常盤井入道太政大臣　藤原実氏公　續後拾遺集

後久我太政大臣　源通光公　歌枕名寄

春雨も ぬり ぬりかねて なきそ 野よ
[illegible]
藤原為家卿 吏木集
なきそ 野よ ところ わか 小萩 散な
の枕 [illegible] 一夜 明し
同
あきそ 好の 雲 [illegible]
藤原為家卿 續後撰集
夕 それ は なきそ の 好 [illegible]
藤原経通卿 吏木集
きそ [illegible]
[illegible]
きのふ の 庭 思ひ [illegible]

大屋原

名寄松葉 [illegible] 載 名石抄類字 [illegible]
萬葉集 [illegible] 於保屋我波良
武蔵志料 [illegible] 萬葉 伊利麻治能於保屋我波良とよ
されど [illegible] 入間郡 [illegible] 河
[illegible] 大野の [illegible]
[illegible] 和名抄 [illegible] 入間郡のうち大家 於保也乃郷
[illegible] 常樂寺 [illegible]
[illegible] 道場
侍る [illegible] 道 [illegible]
[illegible] 水よ [illegible]

やこれらんと云此あたりなるべし
武蔵演路に云大在我原入間郡大家郷今大在家村有大谷原といふ一或豊島郡板橋ある
又云小條谷限堺板橋内大谷郷と見ゆ西大谷原ハ板橋業略の
間今庚申塚のところ也いよ又大井ゟ原ところ〳〵
北川一善云大原ゟ原ハ足立郡の内南村と云ゟ南の
限ゟて東ハ領家村西ハ大谷本郷村上尾と猪川との間あり〳〵ゟく大
谷領と云是大谷原ゟ
榎ゟる江筋悪集ゟ於保屋我波良とよめるハ大谷原
ゟて河原の義ゟへなりしかの
村より十條町山をのぼりて原ゟり地ほやの原といひ俗

ゟ原也ほやの原と唱ゟ近江頃まてゟ本ところなりしに
今ゟ松ゟと多く植ゟく原ハせまりされと於十條町ゟ
ほとんどなれやゝなる地ゟて赤城日光筑波の諸山ゟそて
極て勝景の地ゟ原ゟりちこゟる所の沿といひて十間ゟ或間
そゟりの地又大亀の沿とそめる又そゟり此池あり中ゟ亀
多く鯉多く産ゟれと於天の
社ゟり蓼葉多く
池ゟれそゟく土人これ捕ゟ食ゟいそゟるつゟ此
ようそゟる地ゟ此池ゟり生ゟる蘭なゟく〳〵大谷村八方二十町
そゟりゟる大村ゟそく堀江庄のうちゟ此ゟ郡ハ三郡ゟ
ゟも大谷ゟ原ありといふ説あれと第ゟ見ゟ
伊利麻治能於保屋我原と唱ゟまゟ其説の非ゟる事

論ぢる紙待次

よき人〳〵ら次萬葉集

いで海ら氏却やうのそうのいそる法らひのへぬるくわよる多ま寸そる

日のくれよ大屋のそうとわまゆけそとそよそひなゐく

右入間郡

唯明法師 史木集

埼玉津

名所抄名寄松葉並よ載七名所抄ぬる埼玉津よ作る

法よ埼玉郡とあり類字歌林載せそ

第葉集ぢる佐吉多萬又前玉

拾穗抄よ埼玉津武義之

八雲御抄ぢる云さ氏ごまの津國名ぢる法

史木集ぢる云さ氏ごまの津武義埼玉郡

藻塩草ぢる云埼玉津武義埼玉郡

紫一本よ云さ氏多の埼古歌あり埼玉の郡へ岩付の今城ある

郡也と云郡乃うち大門といよ所よ不見沼と

いつく七里續ぢるとの大池ぬり此池よ負く埼玉の埼ぢさ

きの池ぬと云も有ぬや又利根川よつきその名有也埼玉

の郡より海も遠〳〵

武義野地名考ぢる云埼玉津ぬ埼玉郡乃内なりと云未詳

第葉集にみえたり

武蔵志料に云埼玉郡の津を利根川に云
北川一書に云埼玉郡に埼玉村あり村の南にて町に
至る処に古への津といふ
按るに埼玉津は此の辺の称にて
その地と津の名あるにより地名也といふ説にて利根川の
小埼沼は美處なるゆゑ又利根川に沿ひて
名也といふ説にて利根川の
津をさしていふ又埼玉の郡より海へ
遠しといふに海なくして津の名ありて
海はあるにくきなり又利根川に沿ひて塩津
通しに諸国運送の船こゝに
久しく古今の變遷臆をはかりがたし
さて玉津よりする船は風波いとあらき
小埼沼
名取名寄松葉並に載せ名所和歌の注に武蔵埼玉郡
とあり類字歌林載せず
萬葉集に見武蔵小埼沼鴨作

拾穗抄云見安云武蔵國名一云埼玉郡云在代匝
記云云此玉の埼玉郡云云くゝ武蔵廿四郡の内云あり
八雲御抄云云云云此の池武蔵
文木集云云小埼の池武蔵
藻塩草云云小埼沼武蔵
武蔵地名考云云小埼池荏原郡尾崎村忍城の裏云在阿
武蔵志料云云小埼池埼玉郡行田
部豊後守碑石蔵云云云云
櫻云云忍城の乾云尾崎村云云云云碑石蔵なりこれ
八埼玉村ありて文云武蔵小埼沼右所名稱武蔵小
埼沼即是也所者證以萬葉和歌集矣自寛平五年癸
丑歳至今爲八百六十九年蓋可知其古矣此地紛紜
翁蔚中而既爲隠其所夫豈可不惜邪於是勤其地名
於石以爲不絶不朽云云此下の茶集の歌二首を實暦三年
癸酉歳九月望武忍城主阿部正因建臣文國平岩知雄
書云云

武蔵郡村記云云埼玉郡尾崎村

埼玉郡誌云云小埼沼忍の城より東北云云沼の形云云埼
玉村小針村村あり

櫻云云忍城の東小と云云云云語り城より東北
なりとぞ

又云小埼沼云今沼縁新田と成中程大多沼あり蒹蘆

蓑杜若多く鮒鯰鰻鯉住めりされも浄の一反余六畝多くさてく豊物の速のよ碑も好島の未清水浦田の緑松等と宵く寂くたる面ありこの郡八池沼多き地なれハもてくやさきの小時の池と称せてくや小時の池ありてく小時の池と移せしいふ説ありてく時玉村の池をたちてこれこいつる疑ひさこれをさきのいけよ略玉郡

藤原為尹卿千首

小時の尾さこの池氏秋の月さそや後代のけくさもむく年

水もるのやさこの池乃水さてく

右時玉郡

平時親支木集

岡邉原

名寄松葉よ載さ名所類字歌林載せさ

支木集よ云さその人のさく武蔵

吾妻境よ云岳邉六野太忠澄文治五年

又云岳部平六岳部右馬允岡部六野太岡部小三郎文治六年

又云岡部右馬允建久六年

又云岡邊左衛門四郎 文暦二年
田國雜記云岡部の系といふ
りの始氏田條より近代関東の合戦に数万の軍兵討死
の在所ところ人馬の骨絶ずして塚よほきく今も古墳あ
また侍り
名所方角抄云岡部原向岡の下
木曽路紀云岡部の系名所也古歌有岡部六弥太忠澄
舊宅あり駿河の岡部より六弥太を慮記之
武蔵郡村紀云榛澤郡岡部村
按るに岡邊岡部字異なれど同處なり田園雜記
以下の説皆従ふべし

なきかけをその系の古墳ならん
右榛澤郡

武蔵嶺

名寄松葉に載せ名所和類字歌林載せず
藻塩草に云武蔵小嶺武蔵野の清きをいふ也ちゝ嶋山といふ
こともいでぬもの里あり名残村の人毛を倍多と

なりけるとぞや江戸の西北にあたる人ともさらに去ら
木曾路記ニ云秩父山ヲ武蔵ノ武蔵ノ岳ト云ル山ヲ江戸ノ艮
ニあたりみゆる江戸より坤ノ方ニあたる
名所方角抄ニ云秩父山ノ山嶽ヲ西ノ方ニあり峯ノ雪ノ
なりけるヲ云名ヲ得り武蔵根ト云ルハ此秩父山ヲみてそ
富士ヲみてそ
國名風土記ニ云武蔵國當國秩父嵩其勢鎧武者怒
立躰也依之此國之人心武也日本武尊東夷追罰之為
下給時彼嵩詣御覧吾朝人心武事此嵩故也仍吾凶徒
従大将軍然為御祈禱所持之給鳥兵具彼妙嶮大井御
嵩納埋置鳥彼武具岩蔵籠故号曰武蔵又武具指置仰

有鳥故云尓
江戸名所記ニ云此國の中に秩父の峯ニて雪ある山あり
その山のさま西北ニよこたはる怒れる如し
されハ人皇十二代景行天皇の御宇日本武尊東夷を征
給ふの為ニ此國ニ下りたまひ此山
のいきほひ猛きことを感國ニ満れ
なるもことさらなりと思ひしめし一家今大将軍ニして
東夷の王命ニよりて我責ニ代ん為ニあれり預りなき
此嵩の神我軍を守るへしとて自ら形の武具を雪
のごとくある岩ニあらはし山神を祭りぬ
武蔵志料ニ云秩父峯武甲山武蔵嶺古へたちまねと

いづこの郡今の武甲山にて相傳ふ日本武尊此東夷と討平
なまひて甲冑衣このみよをさめ給ひし山とてかく
いへるとそ摂津國の武庫山の事に同しくいとふるき
事古也未詳
武蔵演路云むさし根多麻郡
梅をもて武義家と称せるもの此郡にあるによりて
これそことかきりしるせるとも方角相違歟
父山とせる説あまりて暗し
よさの人〻ら云 萬葉集

むさしねのそこねをつくし
右秩父郡

蝦手山

名寄松葉に載せる名寄云 西宇和郡名取物類字訣林
載せり
蘿漁第云蝦手山むさし
梭もてるゆゑ蝦手山其石狩洋なり
よさの人志ら次 歌枕名寄
あかつきの夢やまさしくなるときてふれい萩のもとみちもり

海比

名寧松葉に載と名而物類字叙林載さす

萬葉集に云宇奈比

仙覺抄にみつそひくと八箐の苹也苹と八春箐秋生
かるよ箐のをといひ箐そみてかるくとつて
けるとそれを麻の如ひさるところを八うとといふ歟り苹根
をかるそのちうそ皮をとるすなる紙ひくといふ歟り又麻
をも根ねるひくなり古今にもひくあそれをふ乃
名而苹とよめり苹畠をそうといふ体のものなり又
いる共哥に八よそへよめる心あるへ一うるこのみかことは
うへ如き形る儀多也女の俊なり心も老女なりうそ

ともいひをうみことをいふ如ひきさる八老女
のこのみよ仰されとものをひくうるかそれ如此すれと
よそへ而一このうるみうるんうるこころ
總國よいふ也海北(ウナカタ)海南(カミ)といふ八うる比海上の郡なり
とも千葉常陸の鹿島の神よ世うへうるこころ
ありそれそれうる海のなり下總の國なり今乃哥ま
よめるうなるこころ八あるへ一又類林にうるひ八孤
の名歟なへく海名紙うるひとも喝それ八海辺の處
女壯士とあるまし一詠をうるへ一かつこの男をちな
ととこまこ体のまた男紙うるう男とよめるも女の形名
をよまされいのくされとそ壯なよわとうてよめそ海辺と

代匝記ニ云 猪名川ト云ハ津の国よりある八津の口よ伯なる人みく
あり給ふ ゆゑ〳〵
八雲御抄ニ云 井手川 摂津
藻塩草ニ云 いな川 武州
桜ちるト 猪名川 藻塩草ニ桜ちるを水増りて收むといへるを
其ゆゑ 詳ならず

かくのごとく有るを拠ば井手川のさまを深めてわの思ひ付る
ようこそ人〳〵ら〳〵 為家集

大我井杜

松葉ニ載ト名所類字抄ニ教林載せり

桜ちるて 大我井杜 其所詳ならず

藤原光俊朝臣 文木集

紅葉ちる たつの杜乃夕ぐれ又めぐの杜山の嶺もる
詞書ふ此哥を武蔵野ニ形況るけるまゝことにやては
見えねとて杜ほのあの杜ことよりそうつろふの
ふ紅葉見えけるよめるふ

阿賀須沼

松葉ニ載ト名所類字抄ニ教林載せり
八雲御抄ニ云 沼世本よりを
藻塩草ニ云 沼武州

桜ありて橋沢郡と阿賀野村あり又高藻那と阿須
村ありて沼なりしへ流るゝ小川あり〳〵 此
あたり今茂つゝ咲る頃を佳景とすとかや名乃
おもひ出もなくおとろへ考ふるよすがのみ

年を経て引人絶えしこの入江沼や名のみや残る

古江浦

名所抄類字松葉よ未勘国とも名寄歌林載せて
史本集ゝ云ゆるえのうら武蔵
藻塩草ゝ云古江浦未勘

武蔵志料ゝ云或云当国又云越中橋ゝよ古江村越
中にあり第十七巻鴨のそらく古江ゝ云書ゝ名
所ゝ次新拾遺集み月雨の古江の村人たこの浦をよ
ゝ今ゝ次又拾遺集ゝも古江の名ゝよゝる越中ゝ
当国ゝあるに
橋ゝよるに古江浦史本集ゝ拾りて収むといへゝとも其
所不詳ゝ次

遍昭僧正風雅集

第代乃ゝ日波なゝて跡の住古江のうらを松よ本ゝる我
ようこ人〳〵ゝら次史本集
なつ〳〵ゝのふるえの浦よあさりするふねゝやどれる旅の我を

岩瀬渡

名所抄類字歌林並に載せて名寄松葉に能登と載す
武義志料に云、盛書に云、武義なり未詳
又云、今、梅ヶ谷より磐瀬渡森野川ともに大和國高市郡也
いで吉野川ハ古哥よなし〳〵後頼孝に有日本紀景行紀十
八年筑紫國巡狩の時是時於石瀬川人衆聚集と有
筑前に武義ヶ岳ハ少し及ハざるをいふもの〳〵
梅ヶ谷より岩瀬渡志料盛書に引ると拠りて收む
とハいへどもその不詳なるハ
よし人〳〵ら云、文本集

宮崎山

名所抄類字名寄松葉歌林並に載せず
文本集に云、やまき山武義
梅ヶ谷より宮崎山文本集に拠りて收むとハいへど
不詳なるハ
池ヶ谷より南にあたりて山風さむく雪ちりしきて雪降つめる舟をうんで渡りかゝるをいふ

風吹峠

名所抄類字名寄松葉歌林並に載せず
同
文本集に云、やまき山の舟橋より北なる武
梅ヶ谷より岩瀬の渡りへ行てその舟橋よりなる武

舟こもる岩せのこさうちよさ　加茂重敏

名百首類字名寄松葉歌林並ニ載セヲ

百両をいくせの渡浪こえて山ふる月のけ

藤原基廣

霞　晴

名百首類字名寄松葉歌林並ニ載セヲ

史木集ニ云この子さの晴武蔵

掻すてる雲晴史木集ニ掻りて収むといへるも不注ヲ

よこぐもらん史木集

はるかまき雲の彼方を思ふかな浪の花ものや立海のつら霞

名百首類字名寄松葉歌林並ニ載セヲ

史木集ニ云いちの一作椽井津武蔵

掻すてるいちの津史木集ニ掻りて収むといへるも其

不注ヲ

さゝ舟よゆるせことをいちの津のむら〳〵よりこんきろよあむさ

讀人志らず　夫木集

氷川

名寄松葉ニ載セヲ名所抄類字歌林載セヲ

文本集ニ云ルノ八武蔵又安房備前
桜ヨリ今倭ニ至ルマデ岡山ノ城
乃ヨリ下ル川ヲ旭大川トモ舟
川トイヒ下ヲ鏃ト称ヒ又倭ト訓
ルナドアリ

藻塩草ニ云氷川武州
武野遊馬ヨリ云入間郡氷川村ヨリ出ル宮ノ流アリ氷ノ
ゴトシ古ヘヨリ称ヘ下ルヨリ則二ツ氷川ノ上ヲ氷川
桜ヨリ下ヲ川甚ダ洋ナリ此ヲ以テ郡ノ名ニ氷川
神社アルヨリ号ケシナリ考ヘルニ出雲国斐川乃
ヨリ出ルヲ将築大社ノ神ヲ造リ奉ルニ

よりなれハ此地の川名ともおほなるへし是を風土
記と鏃川郷鏃川ふと載されハそのころ氷神名
ふよりて地をもかく唱ひしとおぼえて鏃と氷と訓
お通もれハ延喜式風土記等ニも氷川神社と載さ
まことにより川と唱ハさる事今岡山の城下
をなかるゝ谷ふ大川をも鏃川ともいふ又川ともよ
鏃川といひしことにより川ハ鏃ニて氷と
いひかれて氷ともなりしかとの人会
鏃ニつゐてハあやまりなんされとも文本
集ニ載られしより川とあれハ中ニ
ハけて氷川といひしあらんをもまた

へるに今大宮の氷川神社のそれにうつしたるよしなれば
けまくのかしこきその事にあり〳〵見沼とこゝろえたる地のなれ
ども風土記に載たる鍬川ならんかとも思ふに此見沼八
りくハ三里ばかりなるべし又高麗の頃高岡與清
の祖高田友清といひし人その任にあたりて新田よ
ゐきりしことを石氏の遊覧記に入間郡氷川村の流
れといふことを延喜式に載たる神氷川神社ある地な
ればそれにちかきことなるべしと郡志ともあるによりて
今これをあらせたるにや氷川うんぬんかゝることみえわたりつく

源武部

氷川水底をのぐくゝりくゝりゐるも吟之氏

うらとけて水も結ぶこゝろかな　読人しらず

曝井

名寄松葉よ紀伊とも名取ぬ類字歌林載せたり

松葉集よ云那賀郡曝井歌一首

拾穂抄よ那賀ハ紀伊の郡の名ゝ或記よ武蔵の那珂

郡といふとも代哥枕八雲御抄等曝井紀伊とゝ云又

代匝紀ノ此曝井ヲ八雲御抄ニモ紀伊ト注セラレタルノ那ノ字ノ誤ナラン乎ト云ヒ
阿波伊勢ノ名負濱波ヲ始メ諸國ニモ同名多シ紀伊
紀伊ノ字濁音ニヨムヘキヨシ和名抄ニ注セラル彼ノ二字共ニ濁リ今ノ奇
ラル彼ノ二字共ニ濁リ今ノ奇
モ中ニモムコノ紀州ノ那賀ヲ始メ那賀郡ノ名アルヤ
ナリ〻法國トモ中那ノ字ノ濁音ヨリ轉ジタル例ナルヘシ又那賀
那賀ノ濁音ヨリ轉ジタル例ナルヘシ又那賀
ノ名ヲ負セラレタル歌ハ古今集ニ多ケレハ濁音
那賀ニハ此ノミニモアラス長郡ト武藏常陸濱波統前
ノ名ヲ負セラレタル歌ハ古今集ニ多ケレハ濁音
日向ナドノ〻那賀郡アリ那賀ト那珂トカヨレル

心ヲイフマデモ中ノ字ナルヘシ又武藏
小埼沼ト詠シ〻ルヲトリケル次ノ二首ヨリ考フルニ
ヘラルヤウニモアラヌヤウニモ後ノ考ヲマタサラマホシキヲヤ
カラヌ事ナドイヒシンヤムノ此奇ヲ古ノ奇ト武蔵
常陸國風土記ニ那賀郡自郡東北挾栗河而置驛
家當其以南泉出坂中多流尤清謂之曝井緣泉所居
村落婦女夏月會集浣布曝乾
八雲御抄ニ紀伊
武藏志料ニ云ヘラク云々此奇ノ上武藏小埼沼ヲ詠
奇ヲ詠レタル歌ニ又武藏ノ事ヲ詠ル人〻尤此奇ヲ
者不知ナリ曝井ヲ地名ヲ井ノ名トハセラル俗説

ま新井と云ふ六月井戸後ろ紙に有八幡宮なり
按ふるに曝井常陸風土記八雲御抄拾遺抄及志料
断して本州の名所とあるも拾穂抄の説により世人或ハ本州とするひあれど
の説を採らず巻末に附して其の説をあらはすのみ
みぞくりの中より向ふ曝井共絵巻にそれ書あり

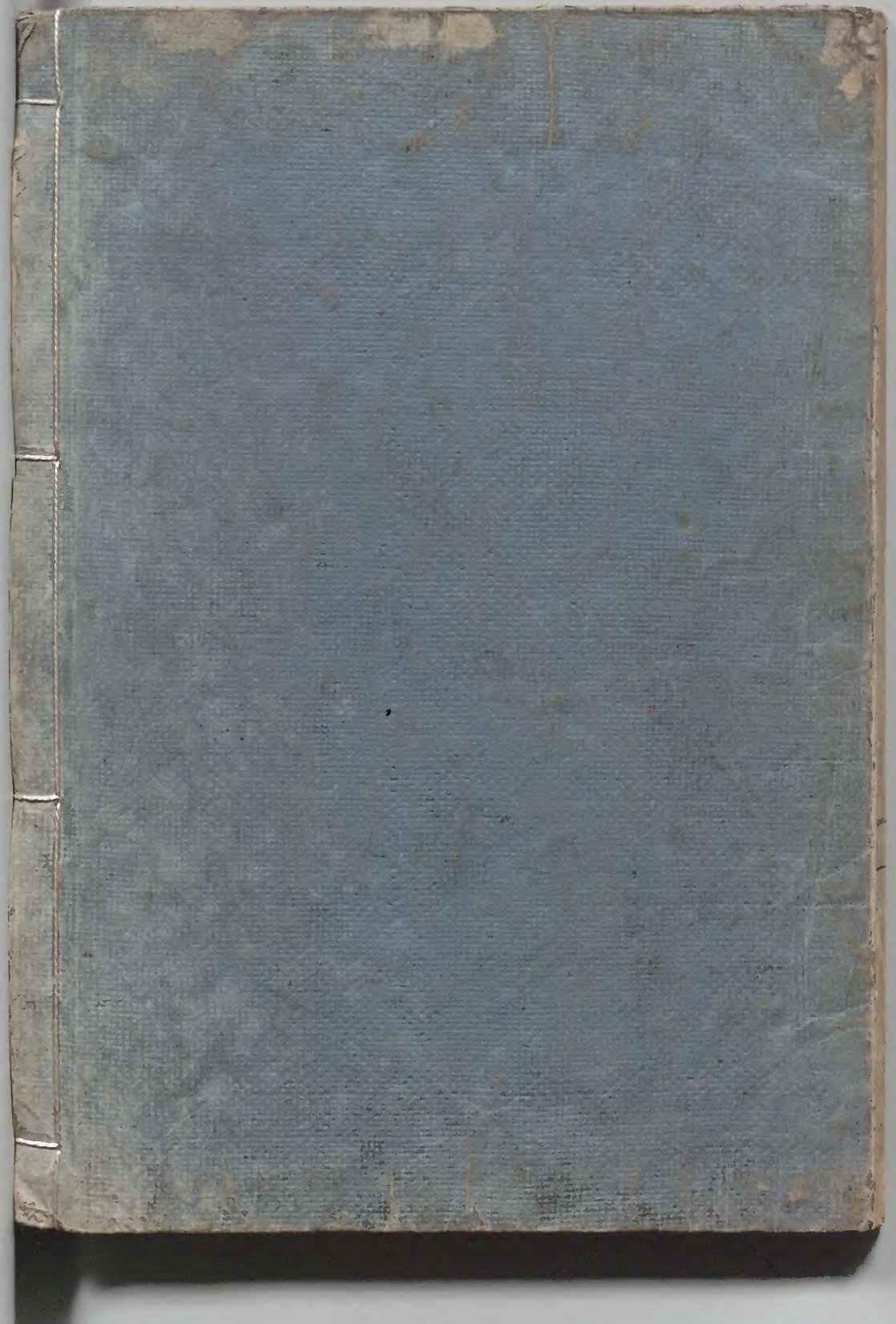
右郡来勘

前の頭共殿を漢乃日本共書の数ふ
ふ共巻ニ明義り見あまらめ給ふ
廊力共篠りつつ紀共も世ふぬけつて
めてもな考へ集ふるかに
武蔵名所考と名跡ふるはこの國
いて廣らふ大きおれいそ共名所も共こと
定ふ志る人ハ都人の偽なのを
ひて書ふ作れりこと

あれと角田の河舟浮るまてとも為れハ
待乳山ハ真昼ハ忘れうもなを百年の
後ハいつりおハ須田ハ渡りの塵れかたらんと
雲の関のせ死あへ堀兼の井の涼く恵ひて
浅草ハ小野の浅うらぬ山田のをやまぬ忠
誠心ハ二股川の二股なるてとまを狭山の
池ハきやけく考へ抑て四巻となるものハ
りてとは玉河ハ玉とまてくおもへく岡の

忍ひうも色ハ見むとハ崎玉の津ハ
妻ひやもやいもはゝ〜かるをとを御倉ハ
西みハ来雪もとハ本意あれこちら
せらるれハ乞奉摘来ハ色重ねあれ
人りあれ方ふなる色きれをハ色ハ
言乃葉をあらさまをせめていきこの
思ふをとをたなとかき我人はるそて
御側近くはつろへる藤原直彦

文政七年甲申夏四月

江戸日本橋通壹町目
發行所 須原屋茂兵衛
同下谷池之端仲町
須原屋伊八

国立公文書館
National Archives of Japan